

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 10 月 8 日 (2020.10.8)

【公開番号】特開 2020-128560 (P2020-128560A)

【公開日】令和 2 年 8 月 27 日 (2020.8.27)

【年通号数】公開・登録公報 2020-034

【出願番号】特願 2020-97269 (P2020-97269)

【国際特許分類】

C 0 9 D 201/02 (2006.01)

C 0 9 D 133/08 (2006.01)

【F I】

C 0 9 D 201/02

C 0 9 D 133/08

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 8 月 24 日 (2020.8.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(1) フルオロアルキル基を有する、フッ素含有割合が 4 重量%～70 重量%である含フッ素ポリマー；及び

(2) 溶剤

を含有するコーティング組成物であって、

前記含フッ素ポリマー (1) が、カルボキシル基に対して直接又は 2 価の有機基を介してエステル結合したフルオロアルキル基を有し、 α 位に置換基を有することのあるアクリル酸エステルに基づく構成単位を有する含フッ素ポリマーであり、

前記含フッ素ポリマー (1) をコーティング組成物全体に対して 20 重量%～50 重量% 含み、かつ

前記溶剤 (2) が、

(2-1) 含フッ素溶剤；及び

(2-2) 非含フッ素溶剤

のみからなり、

前記含フッ素溶剤 (2-1) を前記溶剤 (2) の全体に対して 50 重量%～90 重量% 含む、コーティング組成物。

【請求項 2】

前記非含フッ素溶剤 (2-2) の S P 値が、7～13 である、請求項 1 に記載のコーティング組成物。

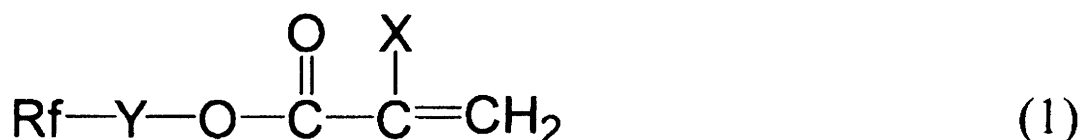
【請求項 3】

前記非含フッ素溶剤 (2-2) の沸点が、100℃～220℃である、請求項 1 又は 2 に記載のコーティング組成物。

【請求項 4】

α 位に置換基を有することのあるアクリル酸エステルが、一般式 (1)：

【化 1】



（式中、Xは、水素原子、フッ素原子、塩素原子、臭素原子、ヨウ素原子、 CFX^1X^2 基（但し、 X^1 及び X^2 は、同一又は異なって、水素原子、フッ素原子又は塩素原子である。）、シアノ基、炭素数1～21の直鎖状若しくは分岐状のフルオロアルキル基、置換若しくは非置換のベンジル基、置換若しくは非置換のフェニル基、又は炭素数1～20の直鎖状の若しくは分岐状のアルキル基であり、Yは、直接結合、酸素原子若しくは硫黄原子を有していてもよい炭素数1～10の脂肪族基、酸素原子を有していてもよい炭素数6～10の芳香族基、酸素原子を有していてもよい炭素数6～10の環状脂肪族基、酸素原子を有していてもよい炭素数6～10の芳香脂肪族基、 $-\text{CH}_2\text{CH}_2\text{N}(\text{R}^1)\text{SO}_2-$ 基（但し、 R^1 は炭素数1～4のアルキル基である。）、 $-\text{CH}_2\text{CH}(\text{OY}^1)\text{CH}_2-$ 基（但し、 Y^1 は水素原子又はアセチル基である。）又は $-(\text{CH}_2)_n\text{SO}_2-$ 基（ n は1～10）であり、Rfは炭素数1～20の直鎖状又は分岐状のフルオロアルキル基である。）で表される化合物である、請求項1～3のいずれか一項に記載のコーティング組成物。

【請求項5】

一般式（1）で表される α 位に置換基を有することのあるアクリル酸エステルにおいて、Rfが炭素数1～8の直鎖状又は分岐状のフルオロアルキル基である、請求項4に記載のコーティング組成物。

【請求項6】

一般式（1）で表される α 位に置換基を有することのあるアクリル酸エステルにおいて、Xがメチル基、フッ素原子又は塩素原子である、請求項4又は5に記載のコーティング組成物。

【請求項7】

封止剤である、請求項1～6のいずれかに記載のコーティング組成物。

【請求項8】

被処理物の表面に被膜を形成する方法であって、
請求項1～6のいずれかに記載の組成物を被処理物に接触させる工程を含む方法。

【請求項9】

請求項1～6のいずれか一項に記載のコーティング組成物を硬化した被膜であって、
表面粗さRaが、 $2\mu\text{m}$ 以下である、
被膜。

【請求項10】

膜厚が、 $1\mu\text{m}$ 以上である、請求項9に記載の被膜。

【請求項11】

85°C のニトリル溶媒を含む溶液中に500時間浸漬した後、浸漬前の98重量%以上が下地面に残存している、請求項9又は10に記載の被膜。